

2022 年度 明治学院大学 FD 活動について（報告）

■FD とは

FD（ファカルティ・デベロップメント）は、

「授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施する取り組み」
のことです。

これは、大学設置基準第 11 条に規定され、教学マネジメント指針（2019 中教審）においても上記を用いております。

本学においては FD・教員評価を、

「大学の教育理念および各学部・学科・教養教育センター・教職課程、各研究科・専攻の教育目標に則した授業内容や教育方法を評価・改善し、教育の質の向上を図る組織的な取り組みの総称」（FD・教員評価検討委員会規程 第 2 条）

としております。

■2022年度のFD活動

1. FD・教員評価検討委員会開催

開催	議題
第1回 5月10日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度授業評価実施日程及び実施要綱について ・FD活動補助金およびFD講演会の実施方法について ・2023年度授業評価アンケート調査票の設問項目について
第2回 10月11日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度秋学期以降の授業評価実施について ・2022年度FD・教員評価検討委員会 実施日程(案)について
第3回 3月7日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度授業評価実施について ・2023年度FD講演会および補助金について

2. 「学生による授業評価」の実施

学期	実施日	実施状況
春学期	7月2日(土) ～7月22日(金)	対象授業：学部 2,479 大学院 48 実施：学部 2,434 (98.2%) 大学院 46(95.8%)
秋学期	12月17日(土) ～1月23日(月)	対象授業：学部 2,407 大学院 49 実施：学部 2,360 (98%) 大学院 44(89.8%)

3. FD関連学外研修会等への参加

大学教育改革フォーラム in 東海 2023
 日程：3月4日
 参加者：教員1名
 ※オンラインおよび一部分科会ハイブリッド開催

4. 学内FD講演会・説明会の開催

2022年度FD講演会・FDワークショップ(各学部からのFD活動の報告)
 日程：3月7日(火) オンライン実施

1. FD関連補助金 採択部局 活動報告

1) 国際学部 発表者：国際キャリア学科主任 GILL Thomas Paramor

「EMIのチャレンジ English as a Medium of Instruction(教育媒体としての英語)を
 実践するFD」

2) 国際学専攻 発表者：国際学専攻主任 平山 恵

「論文作成指導の試行錯誤」

3) 教養教育センター 発表者：教養教育センター外国語教育部門主任 高桑 光徳

「教養教育センター外国語教育部門FD研修会についての報告」

2.委員長選出 FD 活動事例報告

国際経営学科 発表者：国際経営学科主任 渥美 利弘

「国際経営学科ループブック」について

5. 学部・学科のFD活動

文学部

学科・課程別に 2022 年度の FD 諸活動を報告する。

英文学科

学科 FD 研修会を5月11日、6月1日、7月6日、10月5日、11月9日、1月7日、2月2日、3月3日に、将来構想委員会を4月27日、9月28日に、非常勤FD会議を1月28日に実施した。学科研修会、将来構想委員会にはほぼ構成員全員が参加した。非常勤会議は担当専任教員の司会のもと有志の非常勤教員が参加した。

以下活動内容の詳細である。

学科 FD 研修会

5/11 FD の定義の確認を行い、本年度の学科の FD 議題を検討した。結果として、1. 志願者数の大幅減を受け、英文学科の特色の検討(受験生への魅力発信も含む)と入学後のカリキュラムの点検 2. 卒論修論発表会のあり方の再検討 3. 2023年度の新しい基礎演習の本格的実施に向けての課題の検討の3つを大きな議題とすることが確認された。

6/1 2021年度の英文学科卒業生の進路データ、就職率データが報告され、英文学科の学生の就職状況についての情報交換を行なった。また、就職が決まっていない学生の詳細について、キャリアセンターに問い合わせた結果を検討した。入学後のキャリア支援は在学生にとって非常に重要であることはもちろんのこと、入学前の受験生にとっても卒業後の進路や就職活動などは重要な判断ポイントとなっていることから、現在の英文学科のキャリア支援体制について話し合いが持たれ、インターンシップを含むキャリアに直結する授業科目などについて検討を行なった。

7/6 2022年度春学期の英文学科の授業形態データ(オンライン授業と対面授業の割合、キャンパス別の割合)が報告され、英文学科保証人会での保証人からの意見などを参照しつつ、検討を行なった。また、関口先生より GTEC の結果分析について報告があった。1年生については入試結果の影響はさほど大きくなく、在学生については高校生の時からコロナ禍でオンラインでの学びを強いられてきた学生たちの状況を鑑みると英語力の十分な伸びが見られた。

10/5 AI、自動言語処理プログラムの急速な発達に伴う剽窃問題が深刻になっているため、何の使用はOKで、何はダメなのか、そしてそれはなぜなのかを合理的に説明できるように学科としてガイドラインを作る必要性が話し合われた。また、学生からのクレームを学科内で共有し、どのような問題が生じているのかやどう対処するのかが話し合われた。また、卒論の位置付けや卒論発表会の見直しなども話し合った(ガイドラインは12月科会で承認)。

11/9 第一回自己点検作業において、身につく能力表等において文学部 DP と学科 DP が英文学科だけ一致しておらず文学部 DP が流用されている部分があり是正すべきであること(解決を提案する分析力やその伝達表現力について等)、身につく能力表の項目が9項目もあり他学科と公平ではないため、この点も修正すべきであること、コースにより DP の項目を分けるのではなく他学科のように1

つにまとめること、外国語能力について4技能と具体的すぎる表現になっている点は他学科のように総合的な英語能力を指す表現に修正すべきこと、などが確認された。

1/7 第二回自己点検評価の報告が行われた。

2/2 11月のFD会議に基づき、英文学科のDPの改定案が提案され、議論を行った。3月FD会議にて再び審議し、承認予定となった。

3/3 英文学科のDPの改定案を審議し、承認した。これに基づき2023年度以降タイミングを見ながら身につく能力表の丸つけの再検討や、区が多すぎる問題などを検討していく。

将来構想委員会 4/27, 9/28 志願者減を受けて、在学生の一部に英文学科でよかったと感じていることや不満点などをヒアリングした結果を検討し、英文学科の魅力、カリキュラムの特徴の伝え方を検討した。関連して夏のオープンキャンパスに向けて学科イベントとして在校生と卒業生のトークイベントを企画することとなり、詳細を検討した。また、ここ数年来実施してきた卒業論文発表会を総括し、今後のあり方を検討した。

非常勤FD会議 1/28 英語科目等における剽窃の問題や対処などについて英語科目担当非常勤教員とディスカッションが持たれ、英文学科が策定したガイドラインも周知された。また、内容を改定した基礎演習について、担当した教員からのフィードバックをもとに意見交換が行われた。

フランス文学科

4月6日 第1回FD学科検討会、5月11日 第2回FD学科検討会、6月1日 第3回FD学科検討会、7月6日 第4回FD学科検討会、10月5日 第5回FD学科検討会、11月9日 第6回FD学科検討会、1月11日 第7回FD学科検討会、2月7日 第8回FD学科検討会が行われた。

学科検討会には構成員全員が参加した。

以下活動内容の詳細である。

4/6 ■タイトル：カリキュラム改革について

■内容：昨年度に引き続き、2年次の必修となっている「基礎研究」のコマについての再検討が行われた。このコマは3年次から始まるゼミの準備段階として重要な位置づけにあるが、専任教員が横浜校舎で開講できるコマの時限が限られているため、受講人数が偏り、思うような教育上の効果をあげられていない。さらに、3年次のフランス文学科の科目やフランス語科目の配分についても議論が行われた。

5/11 ■タイトル：カリキュラム改革について

■内容：引き続き、2年次の必修となっている「基礎研究」のコマについての再検討が行われたが、近年はそれほど大きな偏りが見られなくなりつつあること、そして内容は非常に充実しており、良い学習効果が得られていることから現状維持でも良いのではないかと議論された。2年次の授業の充実も大切だが、も3年以降の科目を集中的に見直して、卒業論文というゴールまでにいかに学生の学力を高めるか議論となった。

6/1 ■タイトル：カリキュラム改革について

■内容：前回の議論を踏まえて1年次から4年次にいたるコースを抜本的に見直して、学生たちの競争力を高め、よりモチベーションの高い授業の質を担保するためにはどのようなカリキュラムを編成するか議論となった。問題点をブレインストーミングして多くの時間を費やし、有意義な議論がなされた。

7/6 ■タイトル：カリキュラム改革について

■内容：各教員が改めてそれぞれの授業やゼミなどを通して感じている疑問点、問題点を全て出しあった。そして、どこにカリキュラムの問題があって、どこを修正すれば良いのか建設的な議論がなされた。すべてを一気に変更するのは難しいので、とりあえず3年次のフランス文学科科目、そしてフランス語科目を見直すことが提案された。特にフランス語科目は必修から外してクラス制をやめることで学生たちにより選択の自由を与え、モチベーションの高い学生を集めることで質の高い授業ができるのではないかと議論になった。卒業論文というゴールに至るまでどのようなコースを想定するか、どのようにして多様な学生たちの興味を引き出すことができるか、授業方法や内容に至るまで議論された。

10/5 ■タイトル：カリキュラム改革

■内容：各教員がフランス語教育に関して問題を持ち寄った。学生間のレベル、モチベーションの差が大きな問題となった。

11/9 ■タイトル：カリキュラム改革について（AIとどう付き合うか？）

■内容：外国語教育、文学部のあり方を大きく変えてしまうのではないかと危惧されている。自動翻訳のレベルは目覚ましいものがあり、イヤホン一つ身につけるだけで母国語以外の人とある程度の会話ができる世界で、多大な時間、エネルギー、お金をかけて外国語を勉強することの意義が大きく問われている。

今年度、フランス文学史の授業でもオンライン PowerPoint を利用したが、選んだ言語の字幕が瞬時に作成されていた。また AI 作成のレポートを皆で読んだ結果、その質の高さに愕然とした。これからの大学教育では、もはやレポートを課すことができなくなるのではないかと危惧している。対応が必要との話になった。

1/11 ■タイトル：フランス語教育における教科書選定＋フランス語教員教科書会議

■内容：フランス語話者教員と日本語話者教員の授業および連絡のないことが大きな問題となった。来年度からはオンライン EXCEL での情報交換をすることで、煩瑣なメール連絡をやめて瞬時にどのクラスがどのような内容の授業をやっているか共有できるようにすることにした。また一年次におけるフランス語教育で4つある必修科目のうち、2つが文法、1つがフランス語作文、1つがコミュニケーションとなっているが、フランス語作文をよりコミュニケーションに近い授業にすることが検討された。その結果使う教科書も来年度から変更することになった。

2/7 ■タイトル：1年次学年末クラス分け試験判定会議

■内容：1月25日に戸塚校舎で実施した1年次統一語学力テストの結果分析を行った。成績優秀な学生を上級クラス（残り3つは通常クラス）に振り分けるための基準点を決定した。担当者による報告の中で、クラス別平均点の偏りがあったことが報告された。さまざまな理由が考えられるが、丁寧に学生に対応していくことより近道がないとの議論がなされた。

芸術学科

6月1日FD活動検討会を実施した。

検討会にはほぼ構成員全員が参加した。

以下活動内容の詳細である。

6/1 ■タイトル：オンライン授業の問題点検討報告会

■内容：2020-21年度におけるオンライン授業の経験についてリフレクションを行なった。各教員がそれぞれの経験にもとづく報告を行ない、情報共有をはかった。

教職課程

以下の活動を行った。課程の検討会には全員が参加した。

- 4/6 タイトル：役割分担 内容：教職課程内の役割分担(授業, 研究, 広報活動など)
- 5/11 タイトル：時間割の課題の検討 内容：2023 年度時間割作成に向けて課題の抽出
- 6/1 タイトル：自己点検評価への対応 内容：自己点検評価(文部科学省指示)への対応
- 7/6 タイトル：時間割の検討 内容：2022 年度時間割の課題への対応
- 7/27 タイトル：時間割の作成 内容：2023 年度時間割の作成
- 10/5 タイトル：時間割の検討 内容：2023 年度時間割の報告
- 11/2 タイトル：文学部講演会 内容：差別体験授業
- 12/7 タイトル：リーフレットの検討・文科省対策 内容：『教職課程リーフレット』の検討・カリキュラムの見直し
- 1/11 タイトル：授業の振り返り・リーフレットの検討・SD 研修会・時間割の検討 内容：2022 年度授業の振り返り・『教職課程リーフレット』の検討・SD 講演会の案内・2023 年度時間割の課題への対応
- 2/9 タイトル：FD 活動の振り返り・教職課程研修会・文科省対策 内容：2022 年度 FD 活動の振り返り・教員育成指標の検討・カリキュラムの見直し

経済学部

1. 経済学部 2022 年度 FD 活動

18 歳人口の激減により、大学には厳しい時代が到来すると予想されるなか、今後、経済学部としてどのような取組をしていかなければならないのか、「教育内容の改善と他大学の動向」をテーマに、執行部で企画した FD 講演会を二回にわたり開催した。

【第 1 回】

日 時 2022 年 6 月 22 日 17 時 - 18 時

講演者 倉橋 透 獨協大学経済学部長

テーマ 「獨協大学経済学部の試み」

出席者 経済学部教員 (ほぼ全員) ほか

他大学と比較し、みずからの強みをしっかりと分析したうえで、それを SNS や YouTube などのツールを活用して対外的に発信する獨協大学経済学部の取組を紹介いただいた。なお、当該講演会は、倉橋透獨協大学経済学部長のご厚意によるものである。

【第 2 回】

日 時 2023 年 1 月 25 日 10 時 - 12 時

講演者 石原賢一駿台予備校進学情報部長

テーマ 「他大学の教学改革動向と偏差値」

出席者 ワーキンググループメンバー

他大学がどのような教学改革を実施し、その結果、偏差値がどのように変動したのかをご紹介いただき、その後、明治学院大学経済学部として、どのような取組が可能であるかをワーキンググループで議論した。なお、当該講演会および議論の内容は、2月教授会にて、経済学部教員と情報共有した。

2. 学科別 2022 年度 FD 活動

1) 経済学科

5/11 経済学科の今後のカリキュラム（数学教育）について

経済学科の今後のカリキュラム（数学教育）について FD 活動を行った。人事（村田先生後任枠）と関連して、経済学科における数学教育を行う方法や人材について議論し、わかりやすく丁寧に伝えられる、学生の興味をどのように持たせるかという観点から実社会への（潜在的な）応用を伝えるなどについて意見が得られた。今後も引き続き議論していくこととなった。

6/8 経済学科の今後のカリキュラム（数学教育）について

経済学科の今後のカリキュラム（数学教育）について先月に引き続き FD 活動を行った。経済学科における数学を使った教育について、理論系・実証系・応用系それぞれでの実状や問題点、授業を行う上での工夫を紹介してもらった。今後、コース制との関係を踏まえて、コースの特性と数学教育の関係づけ、数学教育の可視化や勉強することのインセンティブを高める取り組みも良いのではといった意見をいただいた。また、他大学の取り組み（数学受験増・問題演習を増やす・数学の点数でのクラス分け）も紹介いただいた。

7/6 経済学科の今後のカリキュラムについて

経済学科の今後のカリキュラムについて FD 活動を行った。教員の入れ替わりに伴うカリキュラムの微修正（科目の整理）について議論した。科目の新設としては、現在専任教員が特講科目として開講している科目について学則上の科目とすることかどうかという点、科目の廃止という点では担当者が退職等で近年開講されていない科目についてである。具体的な3科目の新設についてはコースの趣旨にも沿っていると考えられるが、カリキュラム全体として必要かどうかを検討する必要がある。現在のカリキュラムの人材養成上の目標や3ポリシーとの整合性を検証したほうが良いため、夏休み明けに教務委員会や各コース会議を開催して継続して議論することになった。

10/12 経済学科のカリキュラムと能力要件表の点検について

経済学科のカリキュラムと能力要件表の点検について FD 活動を行った。カリキュラムについては各コース会議での議論も踏まえ、現在専任教員が特講科目として開講している科目について学則上の新設科目とする。休講科目のうち基幹科目は非常勤講師や共同開講による開講とする、基幹科目でない科目は廃止しても良いという方向になった。今後の学科会議で審議する予定である。能力要件表の点検については、DP 上の身につく能力とそのボリュームバランスについて確認するとともに、文言の修正や○の付け方について今後も引き続き検討することになった。

11/9 能力要件表の点検について

経済学科の能力要件表の点検について FD 活動を行った。先月に引き続き、DP 上の身につく能力とそのボリュームバランスについて確認し、身につく能力のうち、「社会的責任をもって他者と協調する能力」について、○の数が少ないという現状が学科構成員で確認、共有された。また、①「身につく能力」の文言を修正するという方向性と② 「身につく能力」の理解を深めるという方向性について検討し、学科としては、②の点についての議論を深め、その上で必要であれば①の文言修正を検討し、○を付け直すという方向で今後も取り組んでいくこととなった。

1/11 「学習成果調査に関する報告書」に関する検討について

「学習成果調査に関する報告書」に関して検討した。経済学科の「学習成果調査に関する報告書」の観点 1 からの IR 分析結果コメントを紹介した。入学年度ごとの身につけている割合の変化について分析し、説明する要因や今後の取り組みについて頭出しし、次回改めて検討することになった。

2/8 「学習成果調査に関する報告書」に関する検討について

「学習成果調査に関する報告書」に関して、先月に引き続き、入学年度ごとの身につけている割合の変化について分析し、説明する要因や今後の取り組みについて検討した。その結果、経済学科の階梯式のカリキュラムがある程度機能している点やコロナ禍の影響、ゼミに入ることで「現代社会における問題に、社会の一員としての責任感を持ち他者と協力し合うという気持ちは身につきましたか。」について肯定的になる、ST 比率の問題で少人数クラスを多数開講できないことなどを学科で共有することができた。

2) 経営学科

5/11 授業内容の検討(1)

参加型授業（「ワークショップ 1」等）について担当教員から現状を聞いた。

6/8 授業内容の検討(2)

参加型授業（「ワークショップ 2」）について担当教員から現状を聞いた。

7/13 授業内容の検討(3)

法学の授業（「ビジネスのための法律 1」等）について担当教員から現状を聞いた。

10/12 授業内容の検討(4)

授業内容のアピールについて検討した。

11/9 授業内容の検討(5)

授業内容（1 年次）について検討した。

2/8 授業内容の検討(6)

授業形態（現状）について検討した。

3/1 授業内容の検討(7)

授業形態（今後）について検討した。

3) 国際経営学科

5/7 授業相互参観

■開催場所：横浜キャンパス ■講師：松園保則、井川ジェニファー

■タイトル：Preparation for Study Abroad1 の授業相互参観

■内容：英語学習方法に関する授業の相互参観を行った

5/11 学生アンケート検討会

■開催場所：白金キャンパス ■講師：永井裕久

■タイトル：学生アンケート（RIASEC 及び RUBRIC）検討会

■内容：21EG 生を対象に実施した RIASEC 及び RUBRIC アンケート結果の発表と分析を行った

5/16 入試データ分析手法研究会

■開催場所：白金キャンパス ■講師：広瀬要輔

■タイトル：データ評価手法分析研究会

■内容：入試結果と手続き率予測に関する予測モデルの検討を行った

6/4 授業相互参観

■開催場所：白金キャンパス ■主催：国際経営学科 ■講師：渥美利弘

■タイトル：Preparation for Study Abroad3 の授業相互参観

■内容：学生の英語でのグループ発表の相互参観を行った

6/18 授業相互参観

■開催場所：白金キャンパス ■講師：筆口

■タイトル：Preparation for Study Abroad3 の授業相互参観

■内容：留学時の危機管理に関する授業の相互参観を行った

6/25 授業相互参観

■開催場所：横浜キャンパス ■講師：鈴木優帆、廣津あやか、加藤木綿美、渥美利弘

■タイトル：Preparation for Study Abroad1 の授業相互参観

■内容：留学やキャリア教育に関する授業の相互参観を行った

10/15 授業相互参観

■開催場所：横浜キャンパス ■講師：大野弘明、生方雅人、加藤木綿美

■タイトル：Preparation for Study Abroad2 の授業相互参観

■内容：留学や学科教員の専門分野紹介に関する授業の相互参観を行った

11/5 授業相互参観

■開催場所：横浜キャンパス ■講師：藤田晶子、山田純平、渥美利弘

■タイトル：Preparation for Study Abroad2 の授業相互参観

■内容：留学や学科教員の専門分野紹介に関する授業の相互参観を行った

12/3 授業相互参観

■開催場所：横浜キャンパス ■講師：永井裕久、西原博之

■タイトル：Preparation for Study Abroad2 の授業相互参観

■内容：留学や学科教員の専門分野紹介に関する授業の相互参観を行った

1/21 授業相互参観

■開催場所：白金キャンパス

■講師：藤田晶子、山田純平、生方雅人、西原博之、大野弘明、
松園保則、井川ジェニファー、渥美利弘

■タイトル：カリキュラム留学帰国報告会の授業相互参観

■内容：留学先でのプロジェクトや成果報告に関する授業の相互参観を行った"

社会学部

社会学部

1. 社会学部 2022 年度 F D 活動

(1) 高校生から見た社会学部の再考

2022 年度から改訂された高等学校の学習指導要領は、「情報 I」の必修化など社会変化への対応が重視された内容になっていると言われる。それを受けて、高校生が大学に期待するものにも変化が生じていると考えられる。とくに社会学部には社会変化に敏感な高校生が関心を持ちやすいと考えられることから、高校教育・進路選択の変化とそこに反映される当学部の位置について学部講師を招いて講演会を行った。新型コロナウイルス感染状況との関係から、講演会場から Zoom で送信する形をとり、後の録画視聴を含めて、学部所属教員全員（サバティカル等を除く）が参加し、後のアンケートに回答している。その研修会の概要は下記のとおりである。

◎7/13 学部 FD 研修会

■開催場所：社会学部附属研究所多目的ルーム／ZOOM ■主催：社会学部

■講師：株式会社リクルート Division 統括本部 進学情報 Division

■タイトル：高校生からみた貴学部の現状

■内容：高校教育改革の動向、コロナ禍の高校生の進路選択、高校生から見た明学社会学科・社会福祉学科"

(2) 入学前教育から学部学科の学習への連関

社会学部では 2021 年度から入学前教育の実施方法・対象・内容を大きく変更した。その結果を受けての課題共有と、2022 年度に向けて、とくに社会科の学習内容を高校までの教科教育から社会学部両学科にかかわりの深いものにつなげるための検討を行った。メールなどによる応答のほか、集中的な検討会は下記のとおりである。なお、学部からの参加者は執行部など入学前教育担当者とした。

◎5/31 入学前教育検討会

■開催場所：社会学部附属研究所多目的ルーム ■主催：社会学部

■講師：駿台グループ エスエイティーティー株式会社

■タイトル：

■内容：2022 年度入学前教育の結果報告と課題の共有"

◎8/3 入学前教育検討会

■開催場所：社会学部付属研究所多目的ルーム ■主催：社会学部

■講師：駿台グループ エスエイティーティー株式会社

■タイトル：

■内容：2023 年度実施に向けた議論(入学後の学びとの連続性を意識した内容への具体的改良案の検討)

2. 学科ごとのFD活動

社会学科、社会福祉学科それぞれが行ったFD活動は以下のとおりである。なお、参加者については活動内容によって異なるが、煩雑となるためここでは割愛する。

(1) 社会学科

活動日	活動内容	詳細
4/6	学科会	<p>■開催場所：ZOOM 会議室 ■講師：仲修平</p> <p>■タイトル：MISSION 学習成果評価分析結果まとめ</p> <p>■内容：定例学科会のなかで、学科FDの一環として、学習成果評価の分析を共有し、その結果について議論を行った</p>
4/27	カリキュラム委員会	<p>■開催場所：ZOOM 会議室</p> <p>■内容：2 年次科目再編に関わる議論、体制確認</p>
5/19	2 年次科目整理 WG 会議 (第 1 回)	<p>■開催場所：ZOOM 会議室</p> <p>■内容：2 年次講義科目再編の具体的検討を行った</p>
5/25	カリキュラム委員会	<p>■開催場所：ZOOM 会議室</p> <p>■内容：定例委員会のなかで、2 年次科目再編に関わる議論、体制確認を行った</p>
6/1	学科会	<p>■開催場所：10F 大会議室</p> <p>■内容：定例学科会のなかで、2 年次科目再編に関わる WG 結果の報告及び全体討論を行った</p>
6/22	カリキュラム委員会	<p>■開催場所：ZOOM 会議室</p> <p>■内容：定例委員会のなかで、2 年次科目再編に関わる議論、体制確認を行った</p>
7/13	カリキュラム委員会	<p>■開催場所：ZOOM 会議室</p> <p>■内容：定例委員会のなかで、2 年次科目再編に関わる議論、体制確認を行った</p>
6/22	2 年次科目整理 WG 会議 (第 2 回)	<p>■開催場所：社会学部付属研究所多目的ルーム</p> <p>■内容：2 年次講義科目再編の詳細を、教務課職員の方がたを招いて確定した</p>

7/27	学科研修会	<p>■開催場所：10F 大会議室</p> <p>■内容：定例研修会のなかで、2年次科目再編に関わる議論、体制確認を行った／学部FD講演会内容を踏まえ、入試・広報体制についての中長期的ビジョンについて話し合った</p>
9/1	自己点検・評価小委員会	<p>■開催場所：ZOOM 会議室</p> <p>■内容：DP および身につく能力の現状の批判的検討を行い、2/17 検討会の素案をもとに今後の改良方針について議論した</p>
10/5	学科会	<p>■開催場所：10F 大会議室</p> <p>■内容：定例学科会のなかで、2年次科目再編に関わる最終決定と、自己点検作業の共有・議論を行った。</p>
10/12	自己点検・評価小委員会	<p>■開催場所：社会学部共同研究室</p> <p>■内容：10月学科会を経て、自己点検報告書を確定させると同時に、今後の改良方針について議論した</p>
11/30	カリキュラム委員会	<p>■開催場所：ZOOM 会議室</p> <p>■内容：定例委員会のなかで、卒論履修者減問題と改革可能性について議論した</p>
1/25	カリキュラム委員会	<p>■開催場所：ZOOM 会議室</p> <p>■内容：定例委員会のなかで、卒論履修者減問題と改革可能性について議論した</p>
2/8	カリキュラム委員会	<p>■開催場所：ZOOM 会議室</p> <p>■内容：定例委員会のなかで、卒論履修者減問題と改革可能性について議論した</p>
2/8	学科会	<p>■開催場所：10F 大会議室</p> <p>■内容：定例学科会のなかで、自己点検報告書（2回目）についての検討を行った</p>
3/1	学科会	<p>■開催場所：10F 大会議室</p> <p>■内容：定例学科会のなかで、留学生用科目の今後に関するWG報告と議論を行った</p>
3/13	学科研修会	<p>■開催場所：10F 大会議室</p> <p>■内容：定例研修会のなかで、3ポリシーの改定についての議論と、3年次以降のカリキュラムに関する意見交換を行った</p>

(2) 社会福祉学科

社会福祉学科でも社会学科と同様に学科会等でFDにかかわる内容を扱っているが、とくにFDを中心的課題とした研修会等は以下のとおりである。

活動日	活動内容	詳細
7/27	社会福祉学科FD	<p>■開催場所：92 会議室</p> <p>■内容：社会福祉学科教員有志による学科将来構想ワーキンググループが他大学の動向分析を報告し、学科全教員で将来構想の短期的目標である福祉開発コースのエリアの見直しを行った。</p>

2/17	社会福祉学科 FD	<p>■開催場所：92 会議室</p> <p>■内容：自己点検に関わる「学習成果調査に関する報告書」に基づき学科のカリキュラムを評価した。また、学科の将来構想および教員人事についてワーキンググループが発表し、参加者全員で短期的および長期的視点で検討した。</p>
2/22	拡大カリキュラム委員会	<p>■開催場所：91 会議室</p> <p>■内容：23 年度に向けて学科のカリキュラム委員会・拡大カリキュラム委員会の在り方について確認した。両委員会は、現行の学科カリキュラムについて検討することを目的とし、カリキュラム委員会は学科主任、コース長、実習センター長、初年次教育担当、特別支援教育担当が各担当間で情報交換・課題の整理を行い、拡大カリキュラム委員会はより総括的な見直し・検討を行うことを確認した。</p>

法学部	
2022 年度の法学部の F D 活動報告—総括	
<p>法学部長：今尾 真 法律学科主任：菅 正広 消費情報環境法学科主任：櫻井 成一郎 政治学科主任：中谷 美穂 グローバル法学科主任：阿部 満</p>	
1. 授業公開	
<p>例年、法学部では春学期と秋学期に教員間で授業公開を行ってきたが、2022 年度も、新型コロナウイルス感染症拡大のため、4 学科とも授業公開は中止した。ただし、政治学科については、学科主任による横浜開講の 1～2 年生向けの必修科目・選択必修科目の授業参観を実施した。</p>	
2. 成績評価基準等および定期試験の問題と解説の公表	
<p>2013 年度から、e-Learning 上または学部オリジナル H.P. 上で、定期試験の問題と解説または講評を公表している。2022 年度の春学期成績評価および定期試験については、8 月 22 日（月）から 9 月 12 日（月）までの 3 週間、公開した（既定の期間以上掲載するかは各教員の判断に委ねた。秋学期も同様）。秋学期定期試験については、3 月 1 日（水）から 3 月 22 日（水）までの 3 週間、公開した。2022 年度は、対面授業を中心に、オンラインまたはハイブリッドの授業が一部行われたので、コロナ前のように、各科目の成績評価をどのような基準で行ったかを中心に説明するとともに、定期試験実施科目については、その解説・講評の公表を行った。なお、定期試験問題・課題レポート等の公開は任意とした。掲載場所は、e-Learning (manaba) 上の「コースコンテンツ」または「コースニュース」のいずれか、もしくは e-Learning 上で公開しない教員のために学部 H.P. 上に掲載場所を設けた。</p>	
3. 法学部 4 学科の FD 活動報告	
◇法律学科の 2022 年度の F D 会議・活動等	
<p>(1) オンライン授業マニュアル（改訂版）等の配布：今年度は、コロナ禍 3 年目を迎え、法律学科は多くの授業が対面化するとともに、オンライン授業にも各スタッフがある程度習熟したため、オンラ</p>	

イン授業の講習会は開催しなかったが、消費情報環境法学科の高橋順子准教授作成による「遠隔授業実践マニュアル 2022 年度版」を 4 月初旬に法学部全スタッフに配信し、オンライン授業の技術向上に対応した。

(2) 初年次教育検討会：2020 年度は新型コロナウイルス感染症拡大により中止、2021 年度はオンライン会議システム (Teams) により行ったが、2022 年度は対面・オンライン併用で法律学科・消費情報環境法学科・グローバル法学科合同で、特別入試合格者向けの英語・国語の入学前教育の報告・成果分析会議を開催した。そこでは、特別入試合格者は、2022 年度生は 3 学科とも、入学前教育プログラムに全員参加したことを前提に、新入生の国語力・英語力の状況などをスタッフで共有した。なお、法律学科については、この入学前教育に、ニュース検定試験も導入して 3 級を受検させたが、大部分が合格したので、3 級レベルの社会的知識・時事力があることが判明した。次年度は、法学部 4 学科すべてに準 2 級を受検させる方向で議論が集約した。

(3) 法律学科会議における FD 検討会：法律学科会議にあわせて FD 検討会を 7 回開催し、オンライン授業について意見交換・自己点検認証における改善指示に対する検討対処・次年度の授業方針 (対面・オンライン併用等)・次年度カリキュラム・授業評価アンケートのやり方・フレッシュャーズ研修のあり方・初年次生教育の在り方および法曹コース指定科目の定期試験実施と相対評価などを議論・検討した。

(4) 法曹コース運営委員会：年間で、計 5 回の法曹コース運営委員会を開催し、法曹コースの学生指導、第 2 期生の進路決定・面談等、法曹コースカリキュラム検討、次年度第 4 期生募集・連携先他大学法科大学院との連携協議等に関し、法曹コースの運営全般について検討する機会を設けた。毎回の教授会において、法曹コース運営委員会での決定事項等を報告し、学部スタッフからの意見聴取や全体での意見交換を行った。

(5) 成績評価基準等および定期試験の問題と解説の公表：上記 2 参照 (全学科共通)。

◇消費情報環境法学科の 2022 年度の FD 会議・活動等

(1) オンライン授業マニュアル (改訂版) 等の配布：今年度は、コロナ禍 3 年目を迎え、法律学科は多くの授業が対面化するとともに、オンライン授業にも各スタッフがある程度習熟したため、オンライン授業の講習会は開催しなかったが、消費情報環境法学科の高橋順子准教授作成による「遠隔授業実践マニュアル 2022 年度版」を 4 月初旬に法学部全スタッフに配信し、オンライン授業の技術向上に対応した。

(2) 初年次教育検討会：2020 年度は新型コロナウイルス感染症拡大により中止、2021 年度はオンライン会議システム (Teams) により行ったが、2022 年度は対面・オンライン併用で法律学科・消費情報環境法学科・グローバル法学科合同で、特別入試合格者向けの英語・国語の入学前教育の報告・成果分析会議を開催した。そこでは、特別入試合格者は、2022 年度生は 3 学科とも、入学前教育プログラムに全員参加したことを前提に、新入生の国語力・英語力の状況などをスタッフで共有した。次年度は、法学部 4 学科すべてに準 2 級を受検させる方向で議論が集約した。

(3) 消費情報環境法学科会議における FD 検討会：消費情報環境法学科会議にあわせて FD 検討会を 5 回開催し、2022 年度は、新学部設立に伴い、消費情報環境法学科から教員が移籍することになり、後任補充も含めて、消費情報環境法学科の教育の柱・特徴などにつき再確認と新機軸の導入など、同学科の将来構想について、重点的に検討した。その他、これに関連させつつ、消費者法教育のあり方、入試制度のあり方および学科の将来構想等について意見交換や議論・検討した。

(4) 成績評価基準等および定期試験の問題と解説の公表：上記 2 参照 (全学科共通)。

◇政治学科の2022年度のFD会議・活動等

- (1) オンライン授業マニュアル（改訂版）等の配布：今年度は、コロナ禍3年目を迎え、法律学科は多くの授業が対面化するとともに、オンライン授業にも各スタッフがある程度習熟したため、オンライン授業の講習会は開催しなかったが、消費情報環境法学科の高橋順子准教授作成による「遠隔授業実践マニュアル2022年度版」を4月初旬に法学部全スタッフに配信し、オンライン授業の技術向上に対応した。
- (2) 学科会議における入学前教育の検討：5月11日と6月8日の2回の学科会議において、政治学科生の入学前教育の在り方について検討した。その結果、法学部ほか3学科と同じく、駿台による英語・国語の課題演習とニュース検定による時事力養成をする方向に決した。
- (3) 政治学科におけるFD検討会：7月20日にFD検討会を開催し、政治学科唯一の必修講義科目（政治学原論）の担当教員より、政治学原論の授業内容と学生の学修状況について説明があり、また学科内カリキュラム委員会で検討した案が報告され、1年次教育のあり方について学科教員全員で議論を行った。
- (4) 学科主任による横浜1、2年選択必修科目の授業参観：政治学科の必修科目（「基礎演習」）ならびに基礎科目A群（「政治制度論」「日本政治史」「入門政治学」）の計4科目について、学科主任が参観し、学生の授業参加度合ならびに授業内容について確認した。これらの情報は、7月20日に学科教員全員で行ったカリキュラム検討でフィードバック
- (5) 成績評価基準等および定期試験の問題と解説の公表：上記2参照（全学科共通）。

◇グローバル法学科の2022年度のFD会議・活動等

- (1) オンライン授業マニュアル（改訂版）等の配布：今年度は、コロナ禍3年目を迎え、法律学科は多くの授業が対面化するとともに、オンライン授業にも各スタッフがある程度習熟したため、オンライン授業の講習会は開催しなかったが、消費情報環境法学科の高橋順子准教授作成による「遠隔授業実践マニュアル2022年度版」を4月初旬に法学部全スタッフに配信し、オンライン授業の技術向上に対応した。
- (2) 初年次教育検討会：2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大により中止、2021年度はオンライン会議システム（Teams）により行ったが、2022年度は対面・オンライン併用で法律学科・消費情報環境法学科・グローバル法学科合同で、特別入試合格者向けの英語・国語の入学前教育の報告・成果分析会議を開催した。そこでは、特別入試合格者は、2022年度生は3学科とも、入学前教育プログラムに全員参加したことを前提に、新入生の国語力・英語力の状況などをスタッフで共有した。次年度は、法学部4学科すべてに準2級を受検させる方向で議論が集約した。
- (3) グローバル法学科会議：11月9日の学科会議にて、グローバル基礎演習2の科目内容について検討した。
- (4) FD検討会：3月3日に、高橋文彦教授を講師に、カリキュラム変更により位置付けの変わる「グローバル基礎演習2」を中心に、これまでの「グローバル基礎演習1」の経験を踏まえて、学科全体の学生のどの能力をどのように伸ばすべきかを含め、両科目の来年度の実施方法・内容・素材の検討をおこなった。
- (5) 成績評価基準等および定期試験の問題と解説の公表：上記2参照（全学科共通）。

4. 総括

2022年度法学部のFD活動報告は、上記の通りであるが、コロナ禍3年目を迎え、FD会議および学科会議がほぼすべて対面開催になり（一部の学科はオンライン開催）、昨年度に比べて、FD活動が活発に行えたという点は、特筆に値する。特に、法律学科については、後述するように、法曹コース教育・対面授業・相対評価などを実施しており、法律学科会議において、毎回、これらに関連する事項についてFD会議を行い、課題の解決・カリキュラム改革・新企画等の導入可否などを多く論じたことは有意義であった。

また、春学期は、コロナ禍が悪化し、多くの授業がオンライン授業であったが、その中でも、法律系基幹科目（六法）を担当の教員の大部分（全学科にまたがる）が、学生達への教育効果を重視し、対面授業を行い、教場・対面による定期試験実施、それに基づく成果等の報告・検討会も行われた。この点は、3年前に法律学科に導入した法曹コースの影響が大きかったと思われる。法曹コースにおいては、連携先法科大学院との教育連携協定に基づくカリキュラムを策定し、それに即して教育を行い、厳正・厳格な成績評価（法曹コース指定科目はすべて相対評価）が求められることから、対面授業による教育効果を最重要視して、コロナ禍においても教育をおこなってきた。これが他学科の法律基幹科目の教育にも大きな影響を及ぼしたといえる。

あわせて、学部全体および各学科とも、ポストコロナを見据えて、コロナとともにどのように有意義な教育を実施すべきかを真剣に論じ、教育の方法等に新境地を拓くための建設的な議論や意見交換を行うことができた。また、オンラインでの対応ならではの施策の検討（e-learningシステムの全学部スタッフの積極的活用など）を行えた。その成果として、全てのスタッフがe-learningシステム（manaba）を使用して、新たな教育メソッドを各自がその能力に応じて、使いこなせる域にまで達したことをあげることができる。ただし、一昨年度・昨年度と同様、学生の満足度（アンケート調査等によれば）は、教員各自のmanabaの活用程度に応じて、格差があったことも否めない。今後、こうしたシステムの使用と活用の学部全スタッフの技能の平準化と、このシステムと対面授業との併用におけるより効率的な授業運営と教育方法の確立が引き続きの検討課題であることが学部の全スタッフで共有された。

最後に、2～3年間のオンライン授業、対面・オンライン併用型の授業を通じて、全学科のFD会議等で、オンラインシステムの効用が明確になったが、他方で、学生・教員とも、教育効果および教育のあり方の点では、対面授業が望ましいことがあらためて認識・確認されたといえる。

国際学部

<国際学部>

国際学部では学科ごとのテーマについてのFDと、学部全体に関わる課題についてのFDとに分けてFD活動を実施している。2022年度は、国際学科のFDを4/13,5/11,6/8,7/6,11/9,12/14の計6回、国際キャリア学科のFDを12/7,1/25の計2回、また国際学部FDを7/27,12/7,1/25の計3回実施した。

国際学科のFDではカリキュラム・ポリシーに関連して、初年次教育、校外実習、インバウンドの留学生受け入れ体制と支援、汎用能力の育成等について勉強会を開催した。国際キャリア学科のFDでは、科目配置、アクティヴ・ラーニング、AI & Active Learning等の問題について議論した。これらのFD活動については、その記録を学部データ・ベースに保存し、教員間でいつでも共有できるようになっており、一過性の議論ではなく、継続しての議論が可能となっている。

以下、学部 FD について、概要を述べる。

1. 7月27日第1回国際学部 FD :

「国際学部の3ポリシーの振り返りと今後の展望」について、4名の発題者がプレゼンテーションを行い、引き続き質疑応答の時間を設けた。主なテーマは、「カリキュラムを見据えた教員配置と後任人事」、「学生の学び（カリキュラム）と卒業後の状況」、「国際学科の専攻制度」、「アドミッション・ポリシーと卒業要件、および就職」、また「国際キャリア学科のカリキュラムと高大連携」についてである。国際学科、国際キャリア学科とも、それぞれの学科の学びの特色を明確に示して3Pを検討していくことが再確認された。個々の問題については、引き続き学科会等で議論することにした。

2. 12月7日第2回国際学部 FD :

京都大学教育学研究科教育学環専攻教育・人間科学講座教授の松下佳代先生を講師としてお招きし、「大学教育における汎用的能力の育成の可能性」をテーマにオンラインで講演会を実施した。国際学部は多様な研究分野の教員が集まる学際的な学部であり、学生たちは自分たちの様々な興味関心を探求して学びを深め、また、インターンシップや留学、校外実習等の学外での学びにも参加している。今回の講演会では特定分野の知識に加えて汎用的な能力を身に着けるということの重要性についてお話を伺った。今後、「汎用的な能力」の修得を含めた学部のカリキュラム・ポリシーを検討する必要があることを確認した。

3. 1月25日、オックスフォード EMI 社の理事長、ジュリー・ディアデン博士による国際学部オンライン FD 講演会の報告

EMI (English as a Medium of Instruction、教育媒体としての英語) の第一人者であり、特に英語のネイティブ・スピーカーではない教員のスキルアップをテーマに研究・実践を行っているジュリー・ディアデン博士にオンラインでご参加いただき、国際キャリア学科の教員、また国際学科で KC の英語科目を担当している教員を対象に講演会を開催した。英語を母語としない教員が英語で授業を行う際のポイントや、EMI のグローバルな展開とその重要性についての説明があった。特に EMI の教室でインタラクティブな学びを促進するための有用な戦略やテクニックなどについても実例を挙げて解説いただいた。多様なバックグラウンドを持つ学生を対象に、すべての授業を英語で行う国際キャリア学科のカリキュラムを見直す上で大変有意義な機会となった。

なお、外部講師を招いての学部 FD (12/7,1/25) に関しては、FD 活動補助金より支援いただいた。この場を借りて感謝申し上げます。

<国際学研究科>

2022年度は国際学研究では「論文作成指導」をテーマにして以下の通り2回FDをおこなった。

第1回FD 2022年9月21日

「アカデミック・ライティングについて」

話題提供：阿部望氏(「アカデミック・ライティング」担当非常勤講師)

第2回FD 2023年2月14日

「大学院生の研究に合った指導」

話題提供：李サンベック氏（「国際学基礎演習」担当 准教授）

話題提供後に質疑応答、それぞれの経験をシェア等、意見交換を行った。

また、FD 補助金で購入した参考文献の紹介に続き、さらなる参考文献の分かち合いも行った。

2 回の FD の成果

- ・ 研究科のFDとして行ったが、学部の卒論指導にも参考になるという声が聞かれた。
- ・ 国際学部では論文指導を行っているが、卒論がない学部卒の院生への特別な配慮が必要であることが分かった。
- ・ 経験ある退職教員の研究科での採用及びFDでの話題提供は有用である。
- ・ 方法論と研究テーマのバランスをどうするかが今後の課題となった。
- ・ 第1回FDを機に購入した論文作成の参考文献2冊は既に教員が参考にし始めており、第2回で出席教員から推薦があった3冊も参考になりそうである。

→ 以下の5冊を購入（はじめの2冊はFD補助金で、それ以外は学部予算で購入）

久米郁男 『原因を推論する』有斐閣

細川英雄『研究計画書デザイン』東京図書

小樽商科大学編『研究の進め方』同文館出版

ブース他 2018 『リサーチの技法』ソシム

Booth et al. 2016 The Craft of Research. Fourth edition. Univ. of Chicago Press.

心理学部

心理学部では、各学科、学部、大学院、附属研究所主催のFD活動を行っている。それぞれのFD活動には、ほぼ全員の教員が参加した。

2022年度心理学科のFD活動は、以下のように開催された。

<心理学科授業力アップのための研究会>

第1回 2022年6月1日（水）発表者 宮本聡介 教授

「心理学演習1B」「社会心理学実習A」の授業の工夫について。（特にチームで）実践するのに必要な基礎知識・スキルを身に付けるため3つのポイントが挙げられ、活発な意見交換が行われた。

第2回 2022年10月5日（水）発表者 森本浩志 准教授

「感情・人格心理学」「認知行動療法」の授業の工夫について。ワークや質問における双方向のコミュニケーションに関する工夫が紹介された。オンラインツールPadletを活用した授業についてなど、活発な意見交換が行われた。

2022年度教育発達学科のFD活動は、以下のように開催された。

<教育発達学科FD研修会>

第1回 2022年5月11日（水）コロナ禍における学生の状況について

コロナ禍3年目を迎え、対面授業・オンライン授業における学生の様子、工夫していることなどについて、学科教員全員で情報共有がなされた。

第1回 2023年2月8日（水）学科開設各授業の接続について（問題提起）

学科開設の授業について、関連がある科目をどのように接続していく必要があるのかについて問題提起がなされ、学科教員全員で議論した。

2022年度心理学部のFD活動は、以下のように開催された。各教員の研究内容を理解し、視野を広げることで教育の質を高めることを目的としている。

＜学部の研究および教育をさらに発展させるための研究発表会＞

第1回 2022年6月22日（水）発表者：教育発達学科 松永あけみ 教授

「児童期における友だちという存在の認識の発達」についての研究内容が報告され、質疑応答を行った。

第2回 2022年11月30日（水）発表者：心理学科 金沢吉展 教授

国内のカウンセリグ・心理療法における中断に関する実態調査と、カウンセリグ・心理療法についてのクライエトの「好み」測定尺度作成についての研究内容が報告され、質疑応答を行った。

大学院心理学研究科FD活動は、以下のように開催された。

＜研究科研究および教育をさらに発展させるための研究発表会＞

2022年6月22日（水）発表者 教育発達学科 宮崎真 教授

「自閉症を伴う知的障害のある中学生2名に対するスクリプトおよびスクリプト・フェイディング手続きによる携帯電話スキルの指導－取次スキルおよび後からの報告スキルの習得と般化維持－」と「知的障害を伴う自閉スペクトラム症就学前の子どもに対する療育プログラム試案」についての研究内容が報告され、質疑応答を行った。

心理学部附属研究所FD活動は、以下のように開催された。

＜附属研究所の研究および教育をさらに発展させるための研究発表会＞

2022年11月30日（水）発表者 教育発達学科 佐藤公 准教授

「Society 5.0」の実現及び「ポスト・コロナ」社会に向け、「テクノロジーの利活用」への対応が求められる社会科教育の原理的考察についての研究内容が報告され、質疑応答を行った。

教養教育センター

2022年度 教養教育センターFD活動について、以下の通り報告する。

各教員の専門が多岐にわたる教養教育センターにおいて、2022年度は全分野を横断するFD活動と並行して、分野ごとに教育方法改善のための研修会等を行うことが、組織的なFD活動の活性化につながるものと捉え、

FD活動を行った。

下記のとおり、日本私立大学連盟主催のワークショップが1件、外国語担当教員（英語・初習語）による研修会が4件、さらにボランティア学部門および健康スポーツ部門の研修会が各1回ずつ、計7回のFDを開催した。

活動日	活動内容	詳細
-----	------	----

4/1	英語コミュニケーション1 AB 担当者研修会	<p>■開催場所：オンライン（Zoom利用）</p> <p>■主催：英語専任教員</p> <p>■講師：WHITE Winton氏（本学非常勤講師）・BARKER Bram氏（本学非常勤講師）</p> <p>■タイトル：英語コミュニケーション1 AB担当者研修会</p> <p>■内容：英語コミュニケーション1 ABを担当している非常勤講師と専任教員（MacLellan,Elam,Thomas）を参加者として実施された。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け遠隔授業が実施されることになり、各授業担当者に以下の内容の研修及び授業内容に関する意見交換会をオンラインにて行った。また、非常勤講師 WHITE Winton氏から「オンラインで発音を教える方法」と BARKER Bram氏から「コロナと語学教室」の例が提供された。</p> <p>■研修会テーマ：英語コミュニケーション1AB関連情報、2021年度のフィードバック、コース情報テンプレート操作方法、Manaba の基本操作方法、小テスト、フォーラム、およびリソースのためのManabaリソースエリアの説明、授業内容のサンプル提示、Quizletリソース/語彙コンポーネント、Quizlet Live の設定方法、可能な授業展開に関する意見交換</p>
4/5	第1回外国語教育FD研修 (オンライン)	<p>■開催場所：オンライン（Zoom利用）</p> <p>■主催：教養教育センター</p> <p>■講師：CONSTANTINESCU Cezar助教（ドイツ語担当）</p> <p>■タイトル：2022年度第1回外国語教育FD研修</p> <p>■内容：日本の大学における初習言語の授業の実施事情のもとで、授業の内容を進行状況に柔軟に対応させ、またWebsiteや動画などのネット上の資料を簡単に授業に取り入れることができる方法を模索し、その際のMoodleとPadletという二つのプラットフォームを用いて、CEFR の A1 レベル相当の内容を扱うオンライン教科書の開発に関して、実践例をもとに具体的な説明がなされた。</p>
8/5・8/9	FD推進ワークショップ	<p>■開催場所：オンライン（Zoom利用）</p> <p>■主催：日本私立大学連盟</p> <p>■講師：グループディスカッションのため特定の講師なし</p> <p>■タイトル：FD推進ワークショップ</p> <p>■内容：午前中、4名～5名のグループで自己紹介、担当科目の概要、授業運営や学生対応における課題の共有について実施。午後は午前と同じグループに分かれて、参加者全員が順番に模擬授業を実施し、それぞれの良かった点や改善点などについて意見交換をおこなった。意見交換後、教員が一方的に話す知識伝達型の授業を避けるにはどうすべきかというテーマについて議論した。これに対して、一度の定期試験ですべてを測るのではなく、多様な社会の中で自分の意見を持って発言することの重要性を教員側がまず認識し、その観点を授業にも盛り込んでいこうといった提案がなされた。最後に、7つのグループの代表者が、各グループで議論した内容を発表し、全体で情報を共有した。主なテーマとして、①到達目標および学生の理解度を確認することの重要性、②授業の導入の工夫、③授業時間の中での緩急をつけるための工夫、④学生への問い</p>

かけや参加型を意識した授業づくり、⑤わかりやすい・見やすい資料やスライドの作成、などが上がった。

以 上